

ストーリー「飛驒匠の技・こころ — 木とともに、今に引き継ぐ1300年 —



JAPAN HERITAGE
日本遺産

日本遺産に認定

「飛驒匠の技・こころ—木とともに、今に引き継ぐ1300年—」

4月19日に開催された日本遺産審査委員会で、高山市の「飛驒匠の技・こころ—木とともに、今に引き継ぐ1300年—」が平成28年度の「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定されました。「日本遺産 (Japan Heritage)」とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形のさまざまな文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

「^{ひだのたくみ}飛驒工制度」は古代に木工技術者を都へ送ることで税に充てる全国唯一の制度で、飛驒の豊かな自然に育まれた「木を生かす」技術や感性と、実直な気質は古代から現代まで受け継がれ、高山の文化の基礎となっています。

市内には中世の社寺建築群や近世・近代の大工一門の作品群、伝統工芸など、現在もさまざまなところで飛驒匠の技とこころに触れることができます。

これは私たちが木と共に生きてきた1300年の高山の歴史を体感する物語です。



国指定重要有形民俗文化財
高山祭屋台の彫刻

■ストーリーを構成する要素

— 近世以前の飛驒の社寺建築の流れを知るストーリー —

古代寺院跡の多い国府地域には、中世に遡る建造物も多く残されており、飛驒の社寺建築の流れを知ることができます。荒城神社本殿は明徳元年(1390)再建であり、阿多由太神社本殿は室町時代初期の建立、熊野神社本殿は室町時代後期の建立と伝わって



国宝安国寺経蔵



国指定重要文化財荒城神社本殿

います。いずれもサワラやヒノキ、スギを多く用いて作られています。現在では入手困難なほどの良材を使用しています。国宝安国寺経蔵は応永15年(1408)建立で、内部の輪蔵(回転書架で、一回転すると納入された經典をすべて読んだことになる)は、日本現存最古のものです。

高山城とゆかりの建築群

— 飛驒匠達が高山城と高山のまちづくりに励んだこころを偲ぶストーリー —

近世初期、天正16年(1588)

から慶長8年(1603)まで16年の年月をかけて飛驒匠たちが建てた高山城は「城郭の構え、およそ日本国中に五つともこれ無き見事なるよき城地」であったと、近世中期の地誌にも書かれた名城でした。城は元禄8年(1695)に取り壊されましたが、それ以前に高山城から移築された建物が東山の寺院群等の建物として残されており、それらを巡ることで今は無き名城高山城を偲び、商家町として発達する以前、城下町として出発したころの高山を感じ



高山城跡